

## 明治初期の外交と反政府運動

### 岩倉使節団

#### ◎目的

1871年 江戸幕府下で締結された不平等条約の改定を目的とし、アメリカへ向け出発する。

#### ◎構成

岩倉具視を特命全権大使、木戸孝允、大久保利道、伊藤博文を副使とした。

#### ◎結果

条約改正は成功しなかった。

※これが回復するのは、1894年の陸奥宗光(領事裁判権)、1911年の小村寿太郎外相(関税自主権)のときである。

### 征韓論

岩倉使節団の留守中に、征韓論が起こった。

征韓論……武力をもって、朝鮮を開国させようとする思想

#### ◎主な思想者

西郷隆盛、板垣退助、後藤象二郎、江藤新平、さえじまたねみお副島種巨

#### ◎岩倉使節団帰国後

岩倉具視らの反対により、征韓論はつぶされた。

↓その結果

1873年 西郷らはいっせいに下野した(明治六年の政変)

↓以後

政府勢力が分裂し、西郷らの征韓論派VS岩倉らの内治優先派となった。

## 朝鮮との外交

1875年 日本の軍隊の挑発によって朝鮮の砲撃事件がおきる(江華島事件)。

↓これをきっかけにし

1876年 全権大使黒田清隆と副使井上薫を朝鮮へ派遣し欧米からおしつけられた不平等条約を朝鮮へ押し付けた(日朝修好条規)

### ◎日朝修好条規の主な内容

- ・日本に領事裁判権を認めさせる。
- ・日本に無関税特権を認めさせる。
- ・朝鮮を1つの独立国とした(保護国としなかったことに注意)

## 清国との外交